齋藤孝著「新聞で学力を伸ばす－切り取る、書く、話す－」

朝日新書、朝日新聞出版 2010 年 8 月 30 日刊を読む

新聞で学力を伸ばす－切り取る、書く、話す－

１．新聞の存在危機が言われる今、私はむしろ、この「新聞」の活用こそが日本を救う最強の道ではないか、と考えています。小学生のうちから新聞を「切り取り、メモを書き、人に要旨・コメントを話す」というトレーニングをすることで、日本全体のパワーは格段にアップする、という確信を私は持ちました。

２．今回、小学生から中高大学生までの人たちにノートに記事を貼りつけ、コメントをやってもらったところ、実に劇的な意識の変革が見られたのです。学生たち全員から課題に対して感謝の言葉が出てきて驚きました。

たとえば、こんな感想があります。

(１)「パラパラととりあえず全ページを見ると思わぬところに自分の学びたいことに関する記事が載っていて、さらに興味関心が深まった」

(２)「携帯電話やインターネットでは、自分が興味を持つ情報しか手に入れることができず、特定の分野についての情報しか得ることができなかった。しかし、新聞を読むことによって新しい考え方を学ぶことが出来たり、今まで思いつかなかった新しい疑問がわいてきた」

(３)「新聞記事を読んでみると、ほぼ事実のみが書いてあり、ニュース番組でみたニュースの生を知ることができたような気がした。これは私にとって新鮮で、やはり新聞はなくてはならないものだと思い改めた」

(４)「今までは『情報を得るための道具』に過ぎなかった新聞が、『切り抜き記事にコメントをつけ話す』ことで考えるための道具になった」

(５)「新聞の切り抜きをやって、自分が世の中に対していかに狭い視野でしか見ていなかったなということに気がついた。また、切り抜いた記事を自分なりにまとめるということにも達成感を感じられ、理解につながった。小学生のころからこのようなトレーニングをすると、いろんな可能性を開くことができるのではないか」

３．新聞によって、これほどの学習がなされることを私自身、本書を執筆するにあたり課題を出してみて初めて身にしみて知りました。かつて新聞の切り抜きは行われていましたが、本格的にやるとこれほどの効果があるとは、まだ確信していない人も多いと思います。

４．本書をきっかけにして新聞活用法「切り取る、書く、話す」という、正統的かつ劇的な学習法が広まってほしいと思っています。

５．そして肝心なことをもうひとつ。

本書でいう「実用日本語」とは、実用に即した基礎的な日本語のことです。注意すべきは従来の「国語」と実用日本語との違いです。英語学習の「実用英語」の日本語版とお考えいただけるとわかりやすいかもしれません。

(１)かつての国語は小説や詩やエッセイなど主に文学作品などを通して読解力を養ってきましたが、文学作品(テクスト)とは意味を多義的に持っているのが特徴です。文学作品を読むということはさまざまな意味の可能性を読み込んでいくことに意味があります。

(２)一方の実用日本語は言葉や文章の意味が一義的で明確にひとつの意味を伝えていきます。したがって、実用日本語における「読解力」とはさまざまな意味を読みとることではなく最も伝えたい部分は何かをつかみとっていくことにあります。誰が読んでも意味が異ならないのが、論理的な文章だということです。

どちらも「国語」という教科に入りますが、その方向性は非常に異なるわけです。ですから従来の国語が得意、作文が大好きという子どもが必ずしも実用日本語が得意とは限りません。

(３)仕事の場面では、事実と意見を区別する力、客観性、論理性が重視されますから、実用日本語で求められるのは「感性豊かに自分の気持ちを書いた」文章ではなく「意見を明確に論理的に書く」文章です。書き方も「結論→理由→まとめ」といった定型フォーマットで書くことが求められます。これまでの作文がブログや日記の文章に近いとすれば、実用日本語で求められるのは「新聞記事」に近い、と言ってもよいでしょう。

６．2011 年度からは、学習指導要領の改訂にともない教科書も大幅に変わり、学校教育でも「実用日本語」が熱心に教えられることになりました。そこで教材として注目を浴びているのが実用日本語の宝庫である「新聞」です。国語教科書には、新聞が取り上げられ、「論理的に物事を理解したり、意見をいう」という学習がこれから取り入れられることになります。

７．論理的な日本語力を授業で学ぶことは大切ですが、きちんと訓練しないとできるようにならないのです。残念ながら、授業でちょっと勉強をしているだけでは実用日本語は身につきません。しかし、心配しないでください。家庭で、トレーニングを習慣化すれば、誰でも着実にできるようになります。

８．慣れれば簡単なことなので、理想は小学生のうちから習慣化することですが、いつからやっても遅くありません。現に、私が教えている大学生たちからも「意識が変わった」「やってよかった」との声が上がりました。ぜひ、この機会に、社会に出てからも役に立つ一生もののスキルを身につけさせてください。

P3 ～ 8

[コメント]

小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分、それぞれ新聞を毎日一面からなめるように読み、自分で考える力、批判的思考能力(Critical Thinking)を身につけることが求められます。齋藤先生の本書は、新聞を用いた教育の有効性や活用の方法が分かりやすく説かれています。大いに参考にしたいと思います。

－ 2010 年 7 月 10 日林　明夫記－